

議会レポート 新年度予算のポイント、議会活動のご報告

「だれもが安心して、自分らしく暮らせる新潟へ」

さとこ

高橋 聡子

新潟市議会議員(中央区)

【所属会派】ともに躍動する新潟
 【所属委員会】環境建設常任委員会
 農業活性化調査特別委員会
 広報委員会

令和8年度 新年度予算 一般会計予算 賛成多数で可決

能登半島地震からの復旧・復興、長引く物価高騰への対応を最優先に進め、未来を担う世代に「選ばれる新潟」を創るため未来を見据えた施策が盛り込まれています。

物価高による家計・事業者への影響、人口減少と人手不足、災害に強い住まいと地域づくりなど課題は少なくありません。予算が確実に市民生活の安心につながっているか、議会で検証と提案を重ねてまいります。引き続き皆さまより多様なご意見、ご要望を賜りますようお願い申し上げます。

高橋 聡子

4年連続で過去最大

4,425億円

(前年度比158億円増)



新年度予算 暮らしと地域を支える主な事業のポイント



物価高から暮らしを守る

生活応援プレミアム付デジタル商品券	12億円
給食費の保護者負担軽減	約27億5,300万円
食料品物価高騰支援金給付	約27億5,000万円



医療・介護現場を支える

介護テクノロジー導入補助金	3,000万円
救急指定病院等物価高騰対策支援金	1億5,500万円



現場の負担軽減と人材定着に向けテクノロジー活用を推進!



将来への投資・まちの活性化

アリーナを核とした白山エスポーツ施設再編	2,000万円
ペロブスカイト太陽電池社会実装推進	8,000万円
おいしさDX産学官共創プロジェクト	1億3,900万円



次世代型「ペロブスカイト太陽電池」とは?

「薄く・軽く・曲げられる」という特長を持つ、日本発の次世代太陽電池です。建物の壁面や耐荷重の小さい屋根など、従来のパネルでは難しかった場所への設置が可能で、本市が主要な原材料であるヨウ素の産地であることから、実証支援と普及啓発を通じ、地域での需要創出を進めます。



環境建設常任委員会審査

私が所属する環境建設常任委員会では、環境、まちづくり、地域交通、道路、公園、上下水道など、暮らしを支える身近な分野を幅広く審査しています。新年度予算に賛成したうえで、以下の意見・要望を申し上げました。

ペロブスカイト太陽電池: モデル事業の成果を広く伝え導入につなげること。

地域の足を守る: 生活交通を支えるボランティア輸送への支援充実。

市営住宅の活用: 空き室を有効活用し、住まいと生活支援を一体で推進。etc.

現場の声を聞く! 活動トピックス

対話と連携

フリースクールとの意見交換



不登校や多様な学びを支えるフリースクールの取組や、現場が抱える課題について直接お話を伺い、支援の在り方について意見交換を行いました。子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる学びや居場所づくりに、どう寄り添い連携していくか、不登校対策を前に進めるため、政策提言を行ってまいります。

経験者の声を聞く

不登校支援をおこなう保護者の会



「Sunny Smile」と意見交換会を開催しました。不登校は子ども本人だけでなく、保護者の不安や孤立、就労への影響など、家庭全体に関わる課題です。施設利用料、交通費・送迎の負担、地域による居場所の差といった実情も共有されました。教育だけでなく福祉・地域が連携し、子どもと家庭を孤立させない支援の充実に取り組みます。

一般質問① 多文化共生のまちづくり

人口減少、人手不足が進む中、外国人住民の皆さんを単なる「労働力」ではなく、地域で共に暮らす市民として迎え、支え合える関係を築く必要があります。またトラブル防止からも本人、雇用企業、地域の三者が安心できる環境づくりを求めました。

- 外国人就労の現状 ハローワーク新潟管内で945事業所・5,024人が就労（製造業1,006人、建設業712人等）。
- 受入れ企業への支援 言葉の壁や在留手続き等の課題を抱える事業者に寄り添い、国・県と連携した具体的な伴走支援策を要請。
- 生活支援と相互理解 「にいがた暮らしはじめの一步」活用や多言語窓口に加え、日本人向け「やさしい日本語」の普及推進を提案。
- 「届き・分かる」行政へ 多言語封筒やホームページの8言語対応を評価。新規事業は制度設計段階から多文化共生視点を組み込む手続きを要請。

一般質問② 認知症フレンドリーなまちづくり

認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせることは、だれにとっても大切な課題です。医療・介護にとどまらず、交通、建築、民間企業、市民の皆さまと連携した「まちづくり」として進めるよう提案しました。

- 認知症当事者の増加推計 市の推計で2022年の約2.9万人から2040年には約3.7万人へ増加。意思決定支援の充実が急務。
- 絆を育む「ユマニチュード」 心を通わせるケア技法「ユマニチュード」等の研究・導入を提案。
- 介護現場の定着・テクノロジー 新設の「介護テクノロジー導入補助金(3,000万円)」を現場の負担軽減へ有効活用。
- 認知症にやさしいデザインの展開 案内表示や動線等のユニバーサルデザインを公共施設や公共交通から展開することを提案。
- 「支援される側」から「活躍」へ 当事者が企業と商品開発等を行う「オレンジノベーション」に注目し交流機会の創出を提案。

記憶に頼らず
行動出来る
空間づくり



改善前



改善後

トイレの扉の色は、周囲の壁とコントラストをつけましょう。
探しやすくなるため、混乱を減らします。

※令和5年9月 第2版
福岡市 認知症の人にもやさしいデザインの手引き

一般質問③ 不登校支援

不登校児童生徒が増える中、学校や支援機関、フリースクール等とつながっていない子どもを、決して孤立させない取組が重要です。一人ひとりの状況に応じた早期支援と、多様な居場所の確保を求めました。

- 支援につながっていない児童生徒の状況 小学校3.8%、中学校2.3%引き続き丁寧な把握と支援をおこなう。
- 対応と働きかけ 家庭外とのつながりが未確認の児童生徒に対し、学校連絡、家庭訪問に加え、関係機関やSSWと連携し、本人と家庭を支える。SSWの全区配置を要請。
- アウトリーチと多様な居場所づくり SSW（スクールソーシャルワーカー）による丁寧なアウトリーチと、フリースクールや地域の居場所を活用できる環境整備を要求。

【お問合せ先・事務所】 新潟市議会議員 高橋聡子 事務所

TEL 025-378-3158 | FAX 025-378-3218 | MAIL satoko_takahashi25@yahoo.co.jp

※引き続き皆さまより多様なご意見、ご要望をお待ちしております。